

<日商簿記1級工業簿記ミニテスト 22>最適セールスマックスの決定

<問題>

ある会社ではコリトルAとコリトルBの2種類を生産し販売している。時期の目標営業利益3,000,000円を獲得するための経営活動を計画中であり、以下の資料を入手した。下記の問に答えなさい。

[資料]

	コリトル A	コリトル B
販売価格	@1,300 円	@1,500
販売可能量	800 単位	1,200 単位
標準材料消費量	4 個	3 個
標準直接作業時間	2 時間	3 時間
標準機械作業時間	3 時間	2 時間

(注1) 材料の標準価格は@100円、直接工の標準賃率は@140円である。

(注2) 変動製造間接費標準配賦率は@60円であり、配賦基準は直接作業時間である。

変動販売費はA製品@50円、B製品@30円である

(注3) 予算固定製造原価は180,000円であり、予算固定販売費及び一般管理費は90,000円である。

(注4) 仕掛品および製品の在庫は一切存在しない。

問

次の各ケースにおける最適セールスマックスとその時に予測される営業利益を計算しなさい。

(ケース1)

次期における材料の最大消費可能量が4,800個である場合

(ケース2)

次期における直接作業時間の最大消費可能量が3,400時間である場合

<答案>

(ケース1)	コリトル A 販売量	単位
	コリトル B 販売量	単位
	予想営業利益	円
(ケース2)	コリトル A 販売量	単位
	コリトル B 販売量	単位
	予想営業利益	円

<日商簿記1級工業簿記ミニテスト 21>最適セールスマックスの決定

<解答>

(ケース 1)	コリトル A 販売量	300 個
	コリトル B 販売量	1,200 個
	予想営業利益	549,000 円
(ケース 2)	コリトル A 販売量	800 個
	コリトル B 販売量	600 個
	予想営業利益	432,000 円